

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 (有) ライフ グループホーム レッツ

ユニット名 れんげ

自己評価実施年月日 平成 20 年 11 月 3 日

記録者氏名 笹岡 廣 ・ 武井 勝巳 ・ 森山 敦司

記録年月日 平成 20 年 11 月 3 日

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は入居者・家族・職員の目に触れる所や職員室に掲示しており、シンプルのため、管理者や職員が口ずさむことも多く、生活の中に浸透している。「スマイル」等の理念の元、笑いのあるホームであり、ケアプランを通して理念が具現化出来るように心掛けている。	掲示してある理念に地域との理念を入れたものに変える
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域のお祭り、地域の防災訓練等、地域の行事に入居者と共に参加している。ホームの行事として「地域交流講演会」を開催し、御家族、地域の方と一緒に勉強、交流をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	天気の良い日には、毎日ホームの近くを入居者と共に散歩し、すれ違う隣近所の方や農作業中の方と気軽に挨拶を交わしている。隣近所の方から、取れたての野菜をいただいたり、お返しのものを持って行ったり、物々交換するなど、年を重ねる毎に日常的なお付き合いが増えている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	上記3、「家族や地域への理念の浸透」に記載の通り、地域の諸行事に参加し地元の人々と交流している。また、ホームが閑静な住宅地の中にあることと子供さんのいる家庭が何軒かあることから、通勤の際職員には、住宅地内最徐行運転を徹底している。また、地域の方のご意見をお聞きしながら、“とびだし注意”の看板（手作り）を作成、子供の飛び出し危険箇所に設置した。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域住民及び家族に向け、講演会を開催している。外部から認知症に詳しい人や、防災に詳しい人などを講師に招いている。地域の方と入居者、家族が交流できる場となっている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者より寮母会において、自己評価及び外部評価を実施する意義の説明をしている。また、外部評価の結果は、全職員が目を通してしている。改善が必要な項目については、寮母会や随時の話し合いにおいて意見を出し合い、改善するように努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者代表・家族代表・地域代表・行政代表・施設代表が出席して開催している。会議では、入居者の実際やサービスの報告等の他、双方が自由に意見を交換できるような雰囲気作りに努めている。議事録は全職員が目を通し、そこでのご意見をサービス向上に活かせるように寮母会等で話し合っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事あるごとに運営者及び管理者が市の担当者を訪ね、話し合い、指導アドバイスを頂いている。市の担当者の紹介でボランティアの来所もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前入居されていた方で、地域権利擁護事業を活用していたケースがあった。その際は、社協の関係者と話し合いを重ね、運営者や職員も少しずつ制度を学んで対応した。今後も必要な方には制度を活用できるようにしたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修会にも進んで出かけるようにしている。また、研修会後には寮母会において伝達講習をしており、学びを共有できるようにしている。また、ホームが閉鎖的にならないように、研修生やボランティアを随時受け入れるようにしている。虐待の記事や情報が入ると運営者が寮母会等で全職員に伝え、虐待について学ぶ機会としている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には前もって必要な時間をお伝えし、十分説明して理解や納得が得られるように努めている。また、事務室または居室（個室）で手続きを行い、ゆったりとした雰囲気の中で、説明が一方的にならないように注意し、不安や疑問を遠慮なく出していただけるように心掛けている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に担当職員を決めており、担当が意見や不満等を定期的にお聞きしている。また、記録等の簡略化に努め、入居者との会話の時間を大切に、その中からもご意見等をキャッチ出来るように心掛けている。必要な事は申し送りノートで全職員に伝達したり、寮母会で話し合っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当者が毎月1回ご家族にお便り（個別近況報告書「田園」）をしている。また、金銭管理については、毎月請求書と共に明細をお送りしている。個々についての報告は、個別に電話連絡したり面会時に行っている。また、家族会やレッツ便りも利用しながら報告をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には職員が訪室し、ご家族と職員との関係作りも念頭に置きながら、入居者の近況等をお伝えしている。また、電話で個別連絡をする際には、どんなことでも遠慮なくご家族からご意見等を出して頂けるように心掛けている。玄関に苦情箱を設置し、第三者委員の連絡先はレッツ便りに載せている。家族会や運営推進会議の時も意見等聞くように努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場において直接運営に関する話し合いを必要に応じてしている。日々の小さな話し合いでも、必要なことは申し送りノートで全職員に伝達している。月1回の寮母会でも意見交換をし、意見がまとまれば運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	運営者、管理者、介護支援専門員がフリーであるため、状況に応じ現場の介護を支援している。特に個別ケア、催し物の見学等には柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の気持ちの変化や体調の変化ができるだけ最少限に抑えられるよう職員のユニット間の移動等はさけ、同じ環境で継続して支援ができるよう心掛けている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する研修の他、管理者が研修計画をたて、計画的に研修に参加できている。研修後は報告書を作成、研修を振り返る時間にも努めている。研修にかかる費用は事業所が半額負担している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会、高知県宅老所・グループホーム連絡会、南国市介護サービス事業所グループホーム部に所属しており、各講演会・勉強会等には運営者や職員が参加して同業者と交流する機会を持っている。横のつながりを大切にし、意見交換等を通して、サービスの質が向上するように努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が日頃から悩みを何でも気軽に言える雰囲気作りを心掛けている。職員から相談を持ちかけられた場合は、当日個別にゆっくり話ができるようにしている。また、時折、運営者と夜勤を除いた職員全員で、親睦を兼ねた食事会を開いている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者、管理者は職員個々の努力や勤務状況を把握できるよう現場の声を拾い、現場に帰すことによって各自が向上心を持てるよう心掛けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	あらかじめ余裕を持って面接の時間をセッティングし、運営者と管理者や職員が訪問して、ご本人とも充分お話をする時間を持つようにしている。ご本人のペースに合わせ、ご希望や不安なこと等をお聞きするようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申込み、相談や見学は可能な限り運営者、管理者、介護支援専門員が受けるようにしており、御家族の不安な事、求めている事をできるだけ数人で聞く事により、色々な状況に対応できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護認定を受けていなかったり、南国市以外の方から入居のお問い合わせをいただくこともあり、そのような時は、お話を聞かせていただき、適切と思われる相談窓口をご紹介します。また、GH入居が必要なケースで当施設が満床の場合は、市内のGHに問い合わせ、空き情報等を提供させていただくようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後には、ご本人のペースに合わせてながら、新しい生活に戸惑うことがないように配慮している。ご家族と相談して、自宅で使っていたタンスや椅子、お茶碗や湯飲み等を引き続き使用させていただくようにしている。得意なことや好きなことを生活の中に取り入れ、新しい生活に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る事と出来ない事を見極め、無理のない範囲で家事や様々なお手伝いをさせていただき、職員の方から「ありがとうございました」とお礼を言う状況が増えるように努めている。記録の簡素化・業務の見直しを行い、共に過ごす時間をなるべく持ち、共同生活者として支えあう関係を大切にするよう心掛けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月毎の家族会やお便りを通じ、御本人の情報を家族と共有している。気分の変化、体調の変化等ある時は、家族と相談し、一緒に考え、より良い方法を模索している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	入居時には、これまでのご本人とご家族の関係をよく聞かせていただいている。入居後ご家族の面会時には、ご本人の近況等をお伝えしたり茶菓をお出しし、居室でゆっくり過ごせるようにしている。ご本人とご家族の関係に注意し、より良い関係が継続できるように心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からよく利用していた商店へ買い物に出かけたり、家に帰られた際、近所の方が来訪されたりと馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居後どうしても入浴されないケースがあったが、特定の入居者となら入浴していただけるようになった。台所仕事、洗濯干し、畑仕事等、気の合った仲間と一緒にやっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関での治療が必要となり、ホームを退居された場合は、お見舞いに伺ったり、死去された場合も葬儀に参列したり、家族の方も顔を見せにホームに来訪して下さる。在宅復帰された方も、お茶の時間を一緒にされることもある。		退居された後も相談などがある場合には、運営者、管理者、介護支援専門員が対応を行っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者に担当職員を決めており、担当が定期的に入居者の思いや暮らし方の希望や意向の把握に努めるようにしている。また、記録等の簡略化に努め、入居者との会話の時間を大切にし、その中からもご意見等をキャッチ出来るように心掛けている。思いのサインに気づく様に全員で心掛けている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前及び入居時に充分時間を取り、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方・生活環境・サービス利用の経過等を聞かせていただき、全職員が把握するようにしている。また、入居後もご本人やご家族から新しい情報が得られた場合は、申し送り等を通して全職員が把握するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	病気からくる体調の日内変動や高齢による体調の変動を考慮した上で、一人ひとりの一日の過ごし方・心身状態・有する力等を総合的に把握するように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者に担当職員を決めており、担当が介護計画作成時にご本人の意見を聞かせていただいている。また、面会時を利用して、ご家族からもご意見等を聞かせていただくようにしている。介護計画作成時には全職員が集まって意見を出し合い、ご本人がより良く暮らせるための介護計画作成に努めている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎に介護計画の見直しを行っている。それ以外にも、対応出来ない変化が生じた場合は、ご本人・ご家族・主治医等と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼夜を通して介護計画に沿った個別記録をしている。また、『ケアプランチェック表』を作成し、日々介護計画がすべて実践できているかチェックし、介護計画見直しの際にも活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用料の支払いが困難なご家族には、契約書に規定はあるがよく話し合って柔軟な対応をしている。また、入院が長引く場合も、ご本人やご家族の状況に合わせて納得の上、退居を決めている。ご家族が悩みを話される場合は、気持ちが少しでも楽になるよう傾聴したり、解決方法があればお伝えしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方に来ていただき、意向や趣向に添った歌や踊りを催していただいたり、消防本部協力のもと、講演会を行なっている。中学生の体験実習も受け入れ、入居者との交流もはかっている。	来年は、関係機関に協力をもとめ、地震に対する勉強会を考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の意向や必要性を考慮し、近隣のGHの催し物に参加したり、カラオケや、地域の行事と一緒に多く出掛けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	在宅復帰を希望された入居者のケースでは、地域包括支援センターと常に連絡を取り合い、ご本人を含めての話し合いを重ね、在宅へ帰ることが出来た。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「医療連携体制」協力医療機関・協力歯科医療機関以外にも、ご本人やご家族の希望により、入居前からのかかりつけ医や他医療機関を受診している。その際は、職員が付き添い、適切な医療が受けられるように支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	病状やご家族の希望により、認知症の専門医を定期的に受診している。その際は、職員が付き添い、日々の状態を詳しく報告して適切な医療が受けられるように支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	「医療連携体制」協力医療機関の訪問看護を、週2回受けている。看護職員の方は入居者一人ひとりとよく関わって下さり、入居者も職員も気軽に何でも相談出来ている。また、看護職員が主治医へ報告して主治医が治療するという一連の流れが早く、入居者は迅速に必要な医療を受けることが出来ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は毎日のように訪問し、寄り添って不安感が軽減できるように努めている。また、出来るだけ早期に退院出来るように病院関係者と話し合いを持っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで最期を迎えられた終末期のケースでは、早い段階からご本人やご家族及び主治医と話し合いを重ね、職員全員で方針を共有してケアを行った。	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	高齢で重度化されたケースでは、ご本人やご家族の希望に添って支援していたがさらに重度化したため、主治医ともよく話し合い、「ホームができること・できないこと」を見極めてケアを行った。ご家族が交代でホームに泊まっておられたこともあり、ご家族の理解も得る事が出来た。	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前には、管理者がご本人宅を数回訪問し、ご本人やご家族と馴染みの関係が作れるように心掛けている。また、充分話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを最小限に抑えることが出来るよう努めている。また、退居される場合も、ご本人やご家族の同意の元、病院のソーシャルワーカーや地域包括支援センター等へも連絡を取り、ご本人が安心して退居先に移動できるように支援している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念として掲げていることであり、日々心掛けている。個人情報については、毎日使用する記録は他者の目に触れないように注意し、その他の個人情報については事務室にて鍵を掛けて保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ドライブの際の行き先や食事の献立の他、日々の暮らしの中で、入居者が希望を出したり自己決定することが出来るように努めている。納得出来ない場合は個別でゆっくり話し合い、ご本人のわかる力に合わせた説明に努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先せず一人ひとりのペースを尊重することは、とても重要なことだと捉えている。常に入居者に希望を気軽に話していただけるような雰囲気作りを心掛けている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	お出かけの際は、外出着を着用しお化粧をしている。また、ご本人と担当職員と一緒に買い物に行き、ご本人らしいおしゃれが出来る物を購入している。現在は全員出張理美容サービスを利用しているが、希望があれば、他店利用の支援は可能である。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや盛りつけ等は、なるべく入居者にも参加していただいている。また、一つのテーブルに入居者と職員が付き、楽しい食事が出来るよう話題の橋渡しやさりげない介助を心掛けている。食べやすいように、入居者によっては細かく刻んだり少量にしている。片づけは、それぞれの力に合わせて、下膳・テーブル拭き・鍋やボール拭き・食器拭き等に参加されている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人やご家族が希望する飲み物を、個別に提供している。また、ご本人と職員と一緒に買い物に行き、好みのものを購入して日常的に楽しめるように支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導が必要な入居者の排泄パターンをつかみ、排泄の失敗を出来るだけなくすように支援している。また、トイレ誘導時は、他入居者に分からないように配慮し、さりげない介助を心掛けている。運動や十分な水分や繊維質の食材をとり、便秘しないように注意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者は毎日入浴できている。また、楽しみにしているテレビ番組の時間をはずして入浴したり、長風呂が出来るように配慮するなど、入浴を楽しんでいただけるように心掛けている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握した上で、眠れない場合は原因を見極め、時には添い寝をしたり温かい飲み物で少しおしゃべりするなど、睡眠剤に頼らないように努めている。日中は、なるべく体を動かすように心掛けている。また、心身の状態を観察し、必要時には早めに休息することが出来るように注意している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活歴や好みや能力に応じて、日常の暮らしの中で、楽しんだり活躍しながら役割が担えるように支援している。また、自発的に参加出来る場面作りを心掛けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人の入居者はお小遣いを所持されており、個別ケアで買い物に行った際には好きな物を自分で選び、自分の財布からお金を支払いされている方もいるが、通常はホームが支払いを行い、立替払いをしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームが田園地帯にあり、交通の心配をせず、毎日のように散歩に出掛けている。その他、それぞれの希望にそって花壇や畑の手入れ、鶏のお世話、月1回の外食やモーニング、個別の買い物、お墓参り等積極的に外出の機会を設けている。また、ドライブも頻繁であり、行き先は入居者の希望を取り入れている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別ケアにてお墓参りや、昨年は家族と1泊旅行に出かけた。入居者の希望に応じ外出支援をしている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人さんが家族との会話を希望される場合、会話を楽しんでいただいている。ダイヤル等の手伝いは、個人の能力に応じ対応している。正月には年賀状を大切な人や家族に出せるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族の他に、ご友人等の来訪もあり、気軽に訪問していただいている。茶菓子や椅子を提供して、居心地よく過ごしていただけるように努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間多動で目が離せない方や、一人で歩いて転倒してしまう方のケアについて職員が悩み、意見交換を重ねる中で身体拘束についての理解を深めた。「身体拘束」をせずに「安全」を守ることが難しいと感じるときもあるが、身体拘束しないケアをしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は鍵をかけることなく、入居者が自由に入出入り出来るようにしている。安全に配慮し、必要時にはそっと寄り添うようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が常に入居者の動向を頭に置いており、場を離れる時は職員同士声を掛け合うようにしている。プライバシーに配慮しながら、安全確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や内服薬は入居者の目の届かない所に保管している。服用時には、それぞれの状態に応じて手渡ししたり、袋から薬を出して飲み込むまで見届けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のための研修会等に参加し、寮母会で伝達講習して全職員が学べるようにしている。また、必要時、一人ひとりの状態に応じた事故防止について話し合っている。ささいな事故も含めて事故報告書やヒヤリハットを提出し、事故が発生するとその日のうちに事故が発生しないための話し合いをしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修会に参加し、寮母会で伝達講習して全職員が学べるようにしている。また、「医療連携体制」協力医（主治医）や訪問看護師から、一人ひとりに応じた急変に対する応急手当等をその都度ご指導いただいている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防火訓練を行っている。地域の防災訓練にも利用者と共に参加している。地域交流講演会を開催したり、地域の行事に参加したりして、地域住民との交流に努めている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについては、全職員で情報交換し、よく話し合った上でご家族に説明している。ご本人にとって「抑圧感のない暮らし」を念頭に置きながら話し合いをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃から体調の変化に注意が必要な入居者はもとより、一人ひとりの体調の変化や異変を早期発見出来るように努めている。入浴時にも、異常を発見できるように注意している。気づいた際には速やかに情報を共有し、対応している。また、些細なことでも気になることがあれば、主治医や訪問看護師に報告している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、入居者の目の届かないところに保管している。薬剤情報提供書は個別でファイルし、いつでも最新のものに目を通すことが出来るようにしている。また、服薬による症状の変化には充分注意し、必要時、主治医や訪問看護師に報告をしている。(主治医や訪問看護師からも症状の変化について問い合わせあり。)		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘については全職員がいつも気に掛けており、排便チェック表にて便秘になっていないか確認している。予防のために、運動への働きかけ・水分摂取・繊維質の食事が出来るように心掛けている。また、ヤクルトを毎週購入。ヨーグルトや果物も取り入れている。便秘が続くときは、主治医や訪問看護師の指示を仰いでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	生活習慣の違いにより、全員の入居者は毎食後歯磨きされていないが、うがいや歯磨きの重要性を入居者に説明し、一人ひとりに応じて支援している。また、鼻腔栄養の入居者の口腔ケアについては、訪問看護師より指導を受けて行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分確保については、全職員がいつも気にかけている。献立と食材は記録し、栄養バランスを考慮している。不定期ではあるが、栄養士にカロリー計算を頼み、職員の意識づけも行っている。個別にて、ミキサー食も対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、職員がいつでも見れる場所に保管し、必要な時実行している。また、訪問看護師の指導のもと、必要に応じ、グローブ着用、消毒なども行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁は消毒し、乾燥して保管している。台所は、いつも清潔と衛生を心掛けている。食材は、新鮮で安全なものを使用している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日本家屋の改修型で、中庭には植木があり、落ち着いた感じのする玄関であり、外の門は常時開けている。もう一方のユニット玄関は、出入口が大きくガラス張りになっており、双方から内・外の様子が見え、入居者・ご家族・近隣の人等が気軽に出入り出来る開放的な雰囲気とする玄関である。両ユニットの周りには、花や野菜を植えている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	防災カーテンを各居室や廊下等で使用し、不快な光が入らないようにしている。また、テレビや会話の音量や調子は、不快なものにならないようにしている。食器棚や本棚等は、一般家庭にあるものを使用し、家庭的な雰囲気作りを心掛けている。民家改造型ではないユニットでは、各居室の入り口を和風に仕上げ、表札を掛けている。桃の節句・端午の節句・七夕・クリスマス・お正月等には、入居者と共に飾り付けを行い、季節感を味わっていただけるようにしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関脇に畳のスペースを設けたり、内縁に椅子を置いてセミコーナーを作ったり、ソファや籐椅子を置いて思い思いに過ごせるようにしている。また、玄関先に椅子とテーブルを置き、自由に外へ出てくつろいだり、花壇や畑が眺められるように工夫している。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談して、これまで使っていた家具や思い出の品を持ち込んでいただき、ご本人が居心地よく過ごせるように配慮している。仏壇を持って来られている方、飾り物で一杯にしている方、必要最小限の物しか置かない方と、それぞれの個性が出ている。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	湿度や温度の変動で体調が悪くなりしがちな入居者がおられるため、湿度や室温の調節には充分注意している。また、換気は、充分行っている。湿温度計を設置しているが、それだけに頼ることなく、利用者の状況に応じて調節している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・廊下には、手すりを設置している。民家改造型ユニットでは、二階までの階段に両手すりを設置している。階段昇降することにより、身体機能の低下防止につながっている。また、それぞれの身体機能を活かし、個別で手すりを設置している。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	民家改造型ユニットでは、民家を改造したため各部屋に特徴があり、分かりやすく混乱はない。もう一方のユニットでは、居室入り口に木製の表札に姓のみ書いて掛けている。トイレには、家庭的な雰囲気を壊さない程度の目印を付けている。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭では鶏を飼い、入居者と一緒にエサをやったり卵を集めている。また、野菜畑や花壇を作っており、水やりが出来るようにバケツと柄杓を常時置いている。物干し場は、入居者の手が無理なく届くように設置し、休憩できるように椅子を置いている。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

住み慣れた自宅での自由な生活が出来なくなり、絶望感の中で共同生活を余儀なくされたお年寄りにも、もう一度活躍の場があり生きる喜びが湧いている。栄養状態も良くなり、ふっくらとし、入浴もして色白になられ、食事の準備、掃除、花作りといそいそと動かれている。ご家族が来られ、こんな笑顔を見たことがない、歌声も聞いたことがないと涙を流される。職員は、利用者やご家族の喜ぶ顔をエネルギーに介護の道を極めていく。持病のある方には少しでも楽になる方法はないかと医療に深く関心を持ち、主治医や訪問看護師に質問が多くなる。新しい知識が前の知識とリンクし、医学も楽しくなる。新人職員は、上司や先輩の言動に学び、外部研修にも知識を広げていく。利用者、職員を問わず地域の一員として暮らし、役割を果たしていく。もちろん行事には参加し、地域の社会資源のひとつとしてお役に立とうとしている。介護保険の高騰や福祉、介護の諸問題も自分事ととらえている。施設入居の諸問題、中でも個人負担の重さを痛感し、もっと安価に介護が受けられるシステム作りを模索している。広範囲に進化し続けるグループホームレッツです。